

2018 年度理事会、学術評議員会ならびに社員総会における報告承認決定事項

第 61 回一般社団法人日本糖尿病学会年次学術集会は、宇都宮一典会長主宰のもとに 2018 年 5 月 24、25、26 日の 3 日間、東京国際フォーラム、JP タワー、東京コンベンションホール、MY PLAZA ホールにおいて開催された。これに先立ち 5 月 23 日に理事会および学術評議員会が、また定時社員総会は 5 月 24 日に東京国際フォーラムでそれぞれ開催された。

1. 2017 年度事業報告および庶務報告

●事業報告

1. 第 60 回年次学術集会

会 長 中村二郎 (愛知医科大学医学部 内科学
講座 糖尿病内科)

会 期 2017 年 5 月 18 日 (木)~5 月 20 日 (土)

会 場 名古屋国際会議場ほか

参加者 14,403 名

○特別講演 赤崎勇, 門脇孝

○会長講演

○Meet the Expert 福田真嗣, 植木浩二郎

○学会賞受賞講演

リリー賞 免疫応答制御による脂質代謝調節機構の研究
糖尿病におけるインスリン・グルカゴン分泌障害メカニズムの解明

○会長特別企画

60 周年特別企画~糖尿病学の夢の実現へ~

○会長特別企画

Realizing the Potential of Diabetes Research

○シンポジウム

臓器・組織の再生と治療への応用 他 29 枠

○教育講演

糖尿病網膜症—診療の進歩— 他 26 題

○ディベート 5 枠

○教育セミナー (AASD and JDI) 1 題

○若手研究奨励賞 審査口演 15 題

○医療スタッフ優秀演題賞 審査口演 15 題

○演題 2,622 演題 (口演 738 題, ポスター 1,870 題, 公募シンポジウム 14 演題)

○The 9th AASD Scientific Meeting, 第 4 回肝臓と糖尿病・代謝研究会の同時開催

2. 第 52 回「糖尿病学の進歩」

世話人 井口登典志 (福岡市健康づくりサポートセンター)

会 期 2018 年 3 月 2 日 (金)~3 日 (土)

会 場 福岡国際会議場ほか

参加者 4,017 名

○レクチャー

2 型糖尿病の成因と病態 Update 他 70 題

○シンポジウム

2 型糖尿病ゲノム研究の現状~疾患感受性遺伝子 Update2018~ 他 41 題

○特別企画

JMAP 方式による『糖尿病性腎症重症化予防プログラム』の実践遂行に向けて~急速進行性糖尿病腎症を中心に~ 他 15 題

3. 地方会活動

1) 第 51 回日本糖尿病学会北海道地方会

会 期 2017 年 11 月 5 日 (日)

会 場 札幌プリンスホテル国際館パミール

会 長 斎藤重幸 (札幌医科大学保健医療学部看護学科基礎臨床医学講座内科学分野)

参加者 811 名

2) 第 55 回日本糖尿病学会東北地方会

会 期 2017 年 11 月 11 日 (土)

会 場 仙台国際センター

会 長 片桐秀樹 (東北大学大学院医学系研究科糖尿病代謝内科学分野)

参加者 1,137 名

3) 第 55 回関東甲信越地方会

会 期 2018 年 1 月 20 日 (土) ※指定講演のみ 21 日 (日)

会 場 朱鷺メッセ

会 長 曾根博仁 (新潟大学大学院医歯学総合研究科血液・内分泌・代謝内科)

参加者 1,323 名

4) 第 91 回日本糖尿病学会中部地方会

会 期 2017 年 10 月 14 日 (土)~15 日 (日)

会 場 北國新聞 赤羽ホール・北國新聞会館

会 長 篁俊成 (金沢大学大学院医学系研究科内分泌・代謝内科学分野)

参加者 793 名

- 5) 第54回日本糖尿病学会近畿地方会
 会期 2017年11月11日(土)
 会場 大阪国際会議場
 会長 池上博司(近畿大学医学部内分泌・代謝・糖尿病内科)
 参加者 2,561名
- 6) 第55回日本糖尿病学会中国・四国地方会
 会期 2017年11月10日(金)~11日(土)
 会場 岡山コンベンションセンター
 会長 四方賢一(岡山大学病院 新医療研究開発センター)
 参加者 1,374名
- 7) 第55回日本糖尿病学会九州地方会
 会期 2017年10月13日(金)~14日(土)
 会場 フェニックス・シーガイア・リゾート
 会長 中里雅光(宮崎大学医学部 内科学講座 神経呼吸内分泌代謝学分野)
 参加者 1,397名
4. 年次学術集会・糖尿病学の進歩・地方会の管理、運営
 本学会が主催する年次学術集会の運営を一元的に管理し、財政負担を削減するために年次学術集会の運営に関して日本コンベンションサービスと長期契約を行い効率的な運用に努めている。また、糖尿病学の進歩および各地方会においても準備状況を適宜報告して頂き学会事務局でまとめている。
5. 支部長会活動
 2018年3月1日に福岡にて第6回支部長会が開催された。
6. 分科会活動、ほか
- 1) 第32回日本糖尿病合併症学会(第23回日本糖尿病眼学会総会と併催)
 会期 2017年10月27日(金)~29日(日)
 会場 京王プラザホテル
 会長 石田均(杏林大学大学院医学研究科内科学)
 参加者 2,252名
- 2) 第4回肝臓と糖尿病・代謝研究会
 会期 2017年5月20日(土)
 会場 名古屋国際会議場
 会長 中村二郎(愛知医科大学医学部 内科学講座 糖尿病内科)
 第60回年次学術集会と同時開催
7. 出版事業
- 1) 会誌「糖尿病」第60巻4号, 第60回年次学術集会抄録号~第61巻3号まで, 13回発行. 会誌「Diabetology International」Volume 8・Number 2-4, Volume 9・Number 1, 4回発行
- 2) 糖尿病患者向け指導書
- ①糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版
 100,000部発行
- ②糖尿病治療の手びき 改訂第56版 増刷なし
- ③糖尿病治療の手びき 2017 改訂第57版
 30,000部発行
- ④糖尿病性腎症の食品交換表 第3版
 10,000部発行
- ⑤糖尿病食事療法のための食品交換表CD-ROM版(ver.4) 増刷なし
- ⑥糖尿病性腎症の食品交換表CD-ROM版(ver.2)付き 増刷なし
- ⑦Food Exchange List 増刷なし
- ⑧糖尿病食事療法のための食品交換表 活用編 第2版 増刷なし
- ⑨カーボカウントの手引き 20,000部発行
- 3) 医師および医療スタッフ向け指導書
- ①こどもの糖尿病・サマーキャンプの手引き 第3版 増刷なし
- ②糖尿病食事療法指導のてびき 第2版 増刷なし
- ③糖尿病療養指導の手びき 改訂第5版 増刷なし
- ④糖尿病治療ガイド2016—2017 3,000部発行
- ⑤糖尿病学用語集 第3版 増刷なし
- ⑥糖尿病遺伝子診断ガイド 第2版 増刷なし
- ⑦糖尿病専門医研修ガイドブック 改訂第6版
 増刷なし
 糖尿病専門医研修ガイドブック 改訂第7版
 6,500部発行
- ⑧小児・思春期糖尿病コンセンサス・ガイドライン 増刷なし
- ⑨小児・思春期1型糖尿病の診療ガイド
 3,000部発行
- ⑩糖尿病診療ガイドライン 2016 増刷なし
- ⑪高齢者糖尿病診療ガイドライン 2017
 15,500部発行
- ⑫糖尿病医療者のための災害時糖尿病診療マニュアル 500部発行
- ⑬医療者のためのカーボカウント指導テキスト
 20,000部発行
- ⑭高齢者糖尿病治療ガイド2018 50,000部発行
8. 糖尿病週間
 2017年11月13日~19日, 第53回全国糖尿病週間

の行事が一斉に行われた。テーマは「重症化予防」, 標語は「糖尿病 手遅れ防ぐ 早めの受診」.

2017年10月15日

9. 国際糖尿病連合会議など
 - 1) IDF-WPR Executive Board Meeting (2017年12月, アブダビ) への出席
 - 2) IDF-WPR Council Meeting (2017年12月, アブダビ) への出席
 - 3) IDF General Assembly (2017年12月, アブダビ) への出席
 - 4) IDF Global Village への出展
 - 5) AASD-Executive Board Meeting (2017年5月, 名古屋) への出席
 - 6) 第6回 East-West Forum の開催 (2017年9月, リスボン)
 - 7) EASD Association Village への出展
 - 8) 日欧交換留学プログラム受賞者の選出
10. 合同委員会など
 - 1) 糖尿病腎症合同委員会
 - 2) 膵臓移植中央調整委員会
 - 3) 糖尿病医療の情報化に関する合同委員会
 - 4) 糖尿病と癌に関する合同委員会
 - 5) 日本肝臓学会・日本糖尿病学会合同委員会
 - 6) 高齢者糖尿病の治療向上のための日本糖尿病学会と日本老年医学会の合同委員会
 - 7) 日本糖尿病・妊娠学会と日本糖尿病学会の合同委員会
 - 8) 日本循環器学会・日本糖尿病学会合同委員会
 - 9) 診療録直結型全国糖尿病データベース事業 (J-DREAMS) 合同委員会
 - 10) JDCP Study 研究調整委員会
 - 11) 糖尿病対策推進会議
11. 普及・啓発・後援事業
 - 1) 日本糖尿病協会への協力
「さかえ」および「つぼみ」発行の企画等
 - 2) 世界糖尿病デーへの参加
「世界糖尿病デー」関連イベントの開催
 - 3) 2017年度全腎協全国大会 2017年5月21日
 - 4) 世界口腔保健学術大会記念「第23回口腔保健シンポジウム」 2017年7月8日
 - 5) 栄養の日・栄養週間2017
2017年8月6日~7日
 - 6) Take ABI & Echo 2017 2017年9月17日
 - 7) 第4回チャレンジ! 糖尿病いきいきレシピコンテスト 2017年10月8日
 - 8) 糖尿病予防キャンペーン 西日本地区講演会

9) 第15回1型糖尿病研究会

2017年11月4日~5日

- 10) 平成29年度「食育健康サミット」
2017年11月9日
- 11) 平成29年度「糖尿病啓発フェスタ in 青森」
2017年11月26日
- 12) 第29回分子糖尿病学シンポジウム
2017年12月2日
- 13) 第29回日本糖尿病性腎症研究会
2017年12月2日~3日
- 14) 第13回長寿医療研究センター 国際シンポジウム
The 13th International Symposium on Geriatrics and Gerontology (略称: ISGG)
2018年2月3日
- 15) 公開セミナー「腎臓病克服への挑戦」
2018年2月25日
- 16) 平成29年度糖尿病予防キャンペーン in 富山
2018年3月17日

●庶務報告

1. 総会

2017年5月18日, 名古屋国際会議場にて第60回定時社員総会を開催した。2016年度事業報告, 庶務報告, 収支決算報告が承認され, また2018年度事業計画が承認された。第63回会長に前川聡学術評議員が選出・承認された。

2. 学術評議員会

2017年5月17日に開催された。

3. 理事会

定例理事会は2017年5月17日, 11月26日, 臨時理事会は2018年3月1日の合計3回開催された。

●会員状況報告 (2018年3月31日現在)

1. 役員等

1) 役員

理事 18名 (2016年度末 18名)

監事 2名 (2016年度末 2名)

2) 学術評議員 711名 (2016年度末 712名, 退任1名)

2. 会員等

1) 名誉会員 37名 (2016年度末 34名, 追加7名, 物故者4名)

2) 正会員

2017年3月末日会員数 17,472名

2017年度新入会 600名

名誉会員へ -7名

復籍 1名

退会 -502名 退会内訳
 希望退会 333名
 会費未納による資格喪失 135名
 物故者 34名

正会員 現在数 17,564名 (92名増)

3) 賛助会員

2017年3月末日会員数 37名

退会 -1名

賛助会員 現在数 36名

3. 物故会員

名誉会員

阿部裕 繁田幸男 七里元亮 前沢秀憲

功労学術評議員

井出健彦 亀井泉 北川照男 下田新一

武部和夫 花井尚志 宮村敬

会員 池田純介 井上憲治 大島洗人 太田隆志

柿原浩明 唐沢耕平 児島協 柴田好彦

白石正勝 進野厚幸 須郷秋恵 鈴木和文

田中政幸 辻野寿 中尾大寿 長崎潮

中島規道 中西幸二 林正直 平野岳毅

末崎一恵 望月隆弘 渡邊榮吉

(敬称略, 連絡のあった方のみ)

2. 委員会報告および各種報告

(出版に関する報告)

1. 「糖尿病」編集委員会 委員長 大澤春彦

1) 委員会開催状況 6回 (2017年4月16日, 5月20日, 7月23日, 10月15日, 12月16日, 2018年3月25日)

2) 委員長は, 前委員長の吉岡成人理事から大澤春彦理事に交代した。副委員長は委員長の指名により小宮一郎委員が再任された。

3) 論文投稿状況および採択率

2017年4月1日から2018年3月31日に投稿された論文数は68であった。その内訳は原著(36), 症例(23), 短報(4), 委員会報告(2), 編集者への手紙(3)である。また, この1年間に採択された論文数は47, 否22論文, 辞退3論文であり, 採否率は68%(前年73%)であった。前年の投稿数は96論文であり比較すると3割減少傾向にある。投稿数増加対策の一つとして, 従来, 各地方会発表演題から一律4演題を推薦頂いていたが, 地方会ごとに発表演題数が異なることから, 演題数の5%程度を推薦頂くこととした。今年度開催の地方会から実施, 大会長に依頼した。また, 特集企画を充実させることとした。

4) 出版状況

第60巻4号から第61巻3号までの12誌と「第60回年次学術集会抄録号」を予定通り刊行した。論文の他に, 学会賞受賞講演, 創立60周年記念講演, 特集6企画, 委員会報告, 地方会演題抄録を掲載した。

【受賞講演/会長講演】

リリー賞	河盛段	糖尿病におけるインスリン・グルカゴン分泌障害メカニズムの解明	59-10
リリー賞	太田嗣人	免疫応答制御による糖脂質代謝調節機構の研究	59-10
会長講演	中村二郎	糖尿病性合併症: その深遠なる課題とともに歩んだ35年	60-10

【委員会報告】

糖尿病治療に関連した重症低血糖の調査委員会報告	60-12
-------------------------	-------

【創立60周年記念講演】

名誉会員 葛谷健	学会設立のいきさつと, 当時と現在の比較	61-3
----------	----------------------	------

【特集】

プライマリ・ケアからみた糖尿病診療	60-5
糖尿病と動脈硬化	60-7
GLP-1受容体作動薬の基礎的・臨床的所見	60-9
糖尿病診療における脂質異常症管理の進歩	60-11
ラ氏島の生物学	61-2
消化管と糖尿病	61-3

5) 機能性表示食品のチラシへの転載申請があったが, 原図をかなり改変していることもあり不許可とした。今後「機能性表示食品」などの広告に使用される申請物は委員会で検討し許諾可否を決定していくこととした。

6) 製薬メーカーが発信し使用されているBOT (basal supported oral therapy) やBPT (basal insulin-supported prandial GLP-1RA therapy) などの造語の使用は認めないことを改めて確認した。

2. 「Diabetology International」編集委員会

委員長 春日雅人

1) 委員会開催状況 1回 (2017年5月19日)

2) 論文投稿状況及び採択率

2018年3月31日現在

	2014	2015	2016	2017	2018
Total Submitted	54	78	99	84	25
Monthly average	4.5	6.5	8.3	9.3	8.3
Total Decisioned	48	74	80	59	6
(Accept)	35	53	47	29	2
(Reject)	13	21	33	30	4
Acceptance Rate	73%	72%	59%	49%	33%

3) 出版状況

2017年 Vol.8-1~4 までを予定通り刊行した。Vol.8-3 より、刊行月をひと月早めており、来年さらにもうひと月早める予定である。

4) 委員会報告掲載状況

Title	Volumes & Issues
Causes of death in Japanese patients with diabetes based on the results of a survey of 45,708 cases during 2001-2010 : report of Committee on Causes of Death in Diabetes Mellitus	Vol. 8-2
Comprehensive risk management for the prevention of cerebro-cardiovascular diseases in Japan	Vol. 8-4

5) 依頼論文

Name (Award)	Title	Article Type	Volumes & Issues
Toshinari Takamura	High-carb or low-carb, that is a question	Commentary	Vol. 8-1
Nobuya Inagaki	Metformin : clinical topics and new mechanisms of action	Commentary	Vol. 8-1
Yoshiaki Kido	Gene-environment interaction in type 2 diabetes	Review Article	Vol. 8-1
Norio Harada	Role of GIP receptor signaling in β -cell survival	Commentary	Vol.8-2
Lena Eliasson (Outstanding Foreign Investigator Award)	Lessons from basic pancreatic beta cell research in type-2 diabetes and vascular complications	Review Article	Vol. 8-2
Takashi Uzu	Salt and hypertension in diabetes	Review Article	Vol. 8-2
Haruhiko Osawa	Towards precision medicine for type 2 diabetes	Editorial	Vol. 8-3
Jun Wada	Reprogramming of metabolism in immune-mediated cells	Commentary	Vol. 8-3

Dan Kawamori (リリー賞受賞論文 2017)	Exploring the molecular mechanisms underlying α - and β -cell dysfunction in diabetes	Review Article	Vol.8-3
Tsuguhito Ota (リリー賞受賞論文 2017)	Immune regulation of glucose and lipid metabolism	Review Article	Vol. 8-3
Yuji Tajiri	Ghrelin and exercise : a possible virtuous circle	Commentary	Vol. 8-4

6) 委員長の交代について

2018年4月1日より、羽田勝計委員に委員長を交代することを決定した。

3. 「食品交換表」編集委員会 委員長 綿田裕孝

1) 委員長・委員の交代について

- ①石田均前委員長より委員長を交代した。
- ②山口宏委員 (東北支部), 窪田直人委員 (関東甲信越支部), 田中武兵衛委員 (近畿支部), 下田誠也委員 (九州支部) が新規就任した。

2) 出版事業

食品交換表および関連書籍の2017年度(2017年4月~2018年3月)の売上・発行状況は以下の通りである(括弧内は発行以来の累計部数)。

- ①糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 (2013年11月1日 発行)
売上部数: 100,654部 (634,210部), 発行部数: 100,000部 (700,000部)
- ②食品交換表活用編 第2版 (2015年1月15日 発行)
売上部数: 5,488部 (22,428部), 発行部数: 0部 (30,000部)
- ③糖尿病腎症の食品交換表 第3版 (2016年6月1日 発行)
売上部数: 4,658部 (14,806部), 発行部数: 10,000部 (25,000部)
- ④医療者のためのカーボカウント指導テキスト (2017年4月11日 発行)
売上部数: 9,451部 (9,451部), 発行部数: 20,000部 (20,000部)
- ⑤カーボカウントの手びき (2017年4月11日 発行)
売上部数: 9,194部 (9,194部), 発行部数: 20,000部 (20,000部)

3) 引用許可願いの審査状況: 2017年度(2017年4月~2018年3月)

- ①食品交換表 第7版:
申請41件 (内, 無条件許可2件/条件付許可

- 34件/取下：審査前3件/審査中2件)
- ②交換表活用編 第2版：
申請1件（内、条件付許可1件）
- ③腎症交換表 第3版：
申請2件（内、条件付許可1件/取下：審査前1件）
- ④カーボカウント指導テキスト：
申請11件（内、条件付許可10件/審査中1件）
- ⑤カーボカウントの手びき：
申請4件（内、条件付許可4件）
- 4) アンケート作成小委員会について
- ①食事における加工品・外食の比率が高まる現在において、より実践的な食事療法のための手引書が必要である可能性が考えられた。そこで、まずはそのニーズを探るために学術評議員と管理栄養士を対象（予定）としたアンケート調査を実施することとし、アンケート内容の検討のため「アンケート作成小委員会」を設置した。
- ②本小委員会の設置とあわせて、これまで外食弁当等への「食品交換表」の翻案・二次的利用について検討を進めてきたワーキンググループについては一旦その活動を休止することとした（作成するアンケートには外食弁当等への「食品交換表」の翻案・二次的利用に関する項目も設ける予定としている）。
- ③アンケートは「食事療法に関する委員会」と合同で実施することとし、設問について両委員会での最終検討を進めている。
- 5) 委員会の開催：
- ①「食品交換表」編集委員会：3回（2017年5月20日、8月27日、2018年3月2日）
- ②アンケート作成小委員会：2回（2017年9月17日、12月17日）
4. 「糖尿病治療の手びき」編集委員会
委員長 前川聡
- 1) 委員会開催（1回）：2017年5月19日
- 2) 委員長を石塚達夫前委員長より交代した。
- 3) 「糖尿病療養指導の手びき」について
売上部数が減少傾向であること、「糖尿病療養指導ガイドブック」（日本糖尿病療養指導士認定機構 編・著）との内容の重なり等、そのあり方について見直す必要性を考慮し理事会も含めた検討を行っており、今後の方針について2018年5月26日に委員会を開催して検討を行う。
5. 小児糖尿病委員会
委員長 浦上達彦
- 1) 成人治療への移行（トランジション）について
日本小児科学会の「小児期発症慢性疾患の成人期への移行支援に関する提言」に基づく1型糖尿病における成人医療への移行の体制整備、支援プログラムの作成について、本学会「小児糖尿病委員会」、日本小児内分泌学会「移行期委員会」および「糖代謝委員会」、日本糖尿病協会から各々委員が選出され、3会合同での「1型糖尿病に関する成人医療移行期委員会」を設立した。活動内容については、各地域での事情を踏まえ、移行期医療合同委員会で移行期プログラムのたたき台を作成し、今秋をめぐりに骨組を作成し、内容を固めて行く予定である。
- 2) 1型糖尿病の保育所・幼稚園への入園に関する提案
1型糖尿病児の保育所・幼稚園への入園および入園後の対応の改善策を、本委員会で厚生労働省や地域の福祉保健局とも協力し進める予定である。
- 3) 本学会からも支援を受けている2018年10月1～3日に国際小児思春期糖尿病学会：ISPAD Science School for physicians（会場：湘南国際村、開催責任者 日本大学小児科 浦上達彦）の開催準備が進んでいる。
6. 「糖尿病治療ガイド」編集委員会
委員長 稲垣暢也
- 1) 委員会開催（2回）：2017年9月18日、2018年3月1日
- 2) 「糖尿病治療ガイド2016-2017」（2016年6月1日刊行）の売上部数は150,563部である（2018年3月末時点）。
- 3) 次改訂「糖尿病治療ガイド2018-2019」については、学術評議員を対象としたパブリックコメント募集（2018年1月12日～25日 実施）での内容を踏まえ原稿の最終確認をしており、2018年5月の刊行（第61回年次学術集会での販売開始）を予定している。
7. 「糖尿病学用語集」編集委員会
委員長 綿田裕孝
- 1) 委員会開催（1回）：2018年3月2日
- 2) 2017年4月26日に「糖尿病学用語集」オンライン版を本学会ホームページで公開した。
- 3) 「糖尿病学用語集」オンライン版では、「My Page」を活用し学会員からのご意見・ご提案を随時受け付ける窓口を設けており、投稿されたものについては委員会で審議し対応を検討する。

- 4) 「日本医学会 医学用語辞典」への用語追加収録/修正の提言については、本学会からの要望が受け入れられた。
- 5) 現時点で用語集のオンライン化および内容改訂について一旦完了と考え、本委員会の次期新体制構築の上申を予定している。
8. 「糖尿病専門医研修ガイドブック」作成委員会
委員長 谷澤幸生
2017年5月19日に「改訂第7版」を刊行した。
2018年3月31日まで1年間の売上部数は3,951冊であった。
委員会は開催していない。
9. 「糖尿病診療ガイドライン2019」策定に関する委員会
委員長 荒木栄一

 - 1) 2017年4月14日に第1回 策定委員会を開催した。
 - 2) 2017年6月16日にシステマティックレビュー(SR) サポートチームおよび評価委員長・委員長補佐による「文献エビデンスレベル・推奨グレード評価ワーキンググループ」を開催し、本ガイドラインの前版「2016年版」に対するMindsの評価結果を踏まえ、今版「2019年版」におけるエビデンスレベル・推奨グレード評価基準の改定案を作成した(本案は統括委員会での承認を経て、策定委員・評価委員に通知した)。
 - 3) 策定委員において「2016年版」を基にCQ・Q案を作成し、2017年10月28日開催の策定・評価両委員長および各委員長補佐による会議においてCQ・Qを確定した。
 - 4) 策定委員による執筆原稿(2018年2月末日 締切)について未脱稿章の収集を進めており、各章原稿は引き続き評価委員による評価へと進める。
 - 5) 2018年8月4日に「推奨グレード決定投票のための策定委員会」の開催を予定している。

10. 英語版「糖尿病診療ガイドライン2016」作成委員会
委員長 羽田勝計
2回の編集委員会を開催し、「糖尿病診療ガイドライン2016」の各章CQ・Qのステートメント、そこで引用されている文献、付録(抜粋)、主要な図表の翻訳を外部委託業者に依頼、英文版の素案と原文とに齟齬がないか、読みやすい英語か、用語の統一的な使い分けなどについて議論を重ね、簡易英語版を作成した。2018年3月末に「Diabetology International (DI)」「Journal of Diabetes Investigation (JDI)」両誌にオンライ

ン公開した。DIはVolume9-No1に収録された。

(学術調査研究・教育に関する報告)=====

11. 2018年度坂口賞および学会賞に関する報告
理事 植木浩二郎

 - 1) 坂口賞は、雨宮伸会員、および陣内富男会員に授与する。
 - 2) 学会賞審査委員会(山本博委員長)を2018年1月20日に開催し、各受賞者を選出した。
 - (1) 2018年度ハーゲドーン賞
花房俊昭(堺市立総合医療センター)
「遺伝学的・組織学的・免疫学的解析に基づく1型糖尿病の成因・病態に関する研究」
 - (2) リリー賞
 - i) 御簾博文(金沢大学医薬保健学総合研究科)
「2型糖尿病におけるヘパトカイン分泌異常の病態生理学的意義に関する研究」
 - ii) 稲垣毅(群馬大学生体調節研究所)
「ヒストン修飾酵素と核内受容体による糖・脂質代謝制御機構の解明」

12. 学術調査研究・教育委員会
委員長 荒木栄一
2017年7月16日および2018年1月21日に委員会が開催された。
 - 1) 若手研究助成金の審査過程から抽出された問題点として、過去3回実施された第2次審査におけるヒアリングの必要性に関して検討し、今後はヒアリングの実施を必須とする必要はないことが確認された。また、申請書類に関して、臨床研究に係る倫理審査の有無、科研費等の重複申請の有無のチェック項目を設けることとした。
 - 2) 第1回医療スタッフ優秀演題賞および第7回若手研究奨励賞の審査過程から抽出された問題点として、採点方法についての見直しが検討され、各審査員の採点を「1~10点」の自由採点方式から「1~5点」の相対評価に変更することとした。
 - 3) 女性糖尿病医をpromoteする委員会から要望された、リリー賞等の規定変更について検討し、リリー賞、若手研究奨励賞および若手研究助成金の年齢条件について、産前産後休業、育児休業または介護休業を取得した場合には、それぞれ当該期間を実年齢から差し引いて応募できるように改定することとした。
 - 4) 女性糖尿病医をpromoteする委員会から提案された、女性研究者賞の新設についてWorking Groupを策定し、2018年3月3日に福岡市でWG

初会合を開催して当該新賞について検討した。

13. 学術調査研究等倫理審査委員会

委員長 池上博司

1) 「臨床研究法」施行への対応

2017年4月14日公布の臨床研究法が2018年4月1日から施行されることを踏まえて、学会員への周知のため以下の対応を行った。

- ①ホームページへの掲載：厚生労働省医政局長研究開発振興課からの周知依頼に基づいて学会ホームページ[官公庁、他団体からのお知らせ]へ掲載、その後、より会員の目につきやすい[学会からのお知らせ]へ掲載変更(2018年3月16日)。
- ②メール一斉配信：委員長名で【重要なお知らせ】として学会員宛メール一斉配信(2018年3月16日)。

2) 審査

2017年度は、下記7件の申請(期間延長2件、修正5件)があった。持回り審議による審査にて問題点・修正点の指摘を行い、最終的にそれぞれ承認した。

- ①日本人1型糖尿病の成因、診断、病態、治療に関する調査研究委員会の「1型糖尿病関連遺伝子群の多施設共同研究」(期間延長)
- ②インクレチン治療のヒト膵腫瘍発生リスクに関する臨床病理学的研究委員会(修正申請)
- ③日本人1型糖尿病の成因、診断、病態、治療に関する調査研究委員会の「劇症1型糖尿病における感染因子の検討」(期間延長)
- ④同委員会の「抗ヒトPD-1/PD-L1抗体投与後に発症する1型糖尿病に関する疫学調査」(改正「指針」に伴う修正)
- ⑤同委員会の「劇症1型糖尿病における感染因子の検討」(改正「指針」に伴う修正)
- ⑥1型糖尿病の成因・病態に関する調査研究委員会の「GAD抗体ELISA測定キットの検討」(委員会名・委員変更に伴う修正)
- ⑦同委員会の「抗ヒトPD-1/PD-L1抗体投与後に発症する1型糖尿病に関する疫学調査」(委員会名・委員変更に伴う修正)

14. 年次学術集会運営委員会

委員長 荒木栄一

2017年12月24日に天津市で委員会を開催し、前川聡会長のもとで開催される第63回年次学術集会(2020年開催)の会場候補施設の視察を行った。会場へのアクセス、会場の数や各会場の座席数などを

確認し、本委員会として天津市で開催することを承認した。なお、その時点で予定されている会場は3か所に分かれており、3か所はほぼ直線上に位置するため、会場間の移動にはシャトルバスの円滑な運行が重要であることから、自治体の協力を得られるよう交渉することとした。

15. 「糖尿病学の進歩」運営委員会

委員長 荒木栄一

2017年5月17日に名古屋市で委員会が開催された。中村直登世話人が第51回「糖尿病学の進歩」の開催報告を行った。2018年3月2日、3日に井口登與志世話人のもと福岡市で開催される第52回「糖尿病学の進歩」のプログラム案について検討した。

16. 食事療法に関する委員会

委員長 宇都宮一典

委員会は2018年3月2日、第52回糖尿病学の進歩の会期中に開催した。糖尿病診療ガイドラインの改訂にあたり、総エネルギー摂取量の設定法について、意見交換を行った。

現行はBMI22を標準体重として、これに活動量を乗じて算出しているが、総死亡率から目標体重をみると、BMI20-25の幅があり、必要エネルギーには個人差が大きく、年齢によっても異なる。BMI30を超える肥満が珍しくなくなった現状を考えると、一律にBMI22に基づく設定をすることは再考を要し、遵守度にも配慮しながら個別化を図ることが望まれる。しかし、この方法は他学会のガイドラインでも広く使用されており、改正をするのであれば、その妥当性を含め、十分なコンセンサスを得ることが必要との見解で合意をみた。今後、継続して検討することとした。

食品交換表は食事療法実践上、基本となる指導媒体として広く活用されてきたが、国民の食習慣が多様化し、調理をする機会が少なくなり、現在の真の需要に合致しているか否か再検討する必要がある。そこで、食品交換表委員会との合同事業として、交換表の使用状況と問題点につき、管理栄養士の会員を中心にアンケート調査を行うこととした。

17. 糖尿病関連検査の標準化に関する調査検討委員会

委員長 難波光義

- 1) 2017年4月1日から2018年3月31日には開催されていない。以下は持ち回りで委員の意見を集約した。
- 2) 膵グルカゴン値の測定法については、すでに本委員会委員の難波光義に北村忠弘、石原寿光、柴輝

- 男, 長坂昌一郎, 綿田裕孝を加え, 北村忠弘を委員長として, 「グルカゴン測定法検証のための小委員会」を結成している. この小委員会で, 2種の抗体を用いるサンドイッチ法によるELISA法と従来からのRIA法との比較検証を実施し, 同法がその定量性において, 信頼できることを報告した「菊池唯史, 北村忠弘, 難波光義: グルカゴンELISA測定キットの性能評価. 医学と薬学75(4): 417-424, 2018.」. また, 採血時の検体処理とその後の保存条件についての検証結果は, 「菊池唯史, 北村忠弘, 難波光義: アプロチニン入り採血管でのグルカゴン保存安定性. 臨床検査61(7): 878-883, 2017」として公表した. 両報告にもとづき, 現在すでに国内ではSRLとBMLの2施設において従来法との切り替えが行われている. 現在のところ最も信頼性が高いと考えられている, 質量分析法との対比でも良好な一致をみており, その結果は「Miyachi A., et al.: Accurate analytical method for human plasma glucagon levels using liquid chromatography-high resolution mass spectrometry: comparison with commercially available immunoassay. Anal Bioanal Chem 409: 5911-5918, 2017」に公表した.
- 3) さらに北村忠弘(群馬大学生体調節研究所)を代表とし, 6施設において健常人と2型糖尿病患者における「糖および食事負荷前後の血中グルカゴン値の推移の検証」研究が現在進捗中である.
 - 4) 2017年7月にシスメックス社からの要望を受け, 学会としてのコメントを求められていた『微侵襲食後血糖モニタリングシステム』の仕様書および提言書(柏木厚典先生監修)に対して, 本委員会メンバーの意見を集約した結果, 『本検査法の意義としては, 健診・ドック施設等で経年的に同一試験食に対する食後血糖値の推移をAUCとして記録・保存し, 同数値と被検者の動脈硬化(大血管障害)関連検査データとを横断的・縦断的に分析することによって, 両者の関係性を明らかにできる可能性がある.』と, 2018年3月19日付で学会理事会に答申した.
18. アンケート調査による日本人糖尿病の死因に関する研究委員会
委員長 中村二郎
本年度, 本委員会は開催されていない.
 19. 日本人1型糖尿病の成因, 診断, 病態, 治療に関する調査研究委員会
共同委員長: 花房俊昭
共同委員長: 小林哲郎
 - 1) 劇症および急性発症1型糖尿病分科会(委員長: 花房俊昭)
「劇症1型糖尿病のMRI所見」についての英文論文をDiabetology International誌に投稿中(現在リバイス中), 和文の委員会報告を作成中である.
「抗ヒトPD-1/PD-L1抗体投与後に発症する1型糖尿病に関する疫学調査」は「1型糖尿病の成因, 病態に関する調査研究委員会」においても継続されるが, 22症例をまとめた中間報告をDiabetology International誌に投稿中である.
 - 2) 緩徐進行1型糖尿病分科会(委員長: 小林哲郎)
GAD抗体の測定結果がRIA法からELISA測定法に切り替えた際, 陰性化する原因に関して検討した. その結果, 陰性する例のGAD抗体は低親和性の抗体が含まれており, ELISA法では検出できない(陰性化する)例があることが判明した. 測定キットの改良などを含めメーカーに対応していく方針である.
 - 3) 遺伝子解析チーム(チームリーダー: 池上博司)
日本人1型糖尿病の体質を明らかにして, 診断・予防・治療に資する情報を得ることを目的に, 3つのサブタイプ(急性発症, 劇症, 緩徐進行)の疾患感受性遺伝子解析の網羅的解析を進めている. 劇症1型糖尿病のGWASを完了し, 結果の論文を投稿中である.
 20. 糖尿病治療に関連した重症低血糖の調査委員会
委員長 難波光義
 - 1) 2017年5月19日, 第60回日本糖尿病学会学術総会(名古屋)において, 本委員会での調査結果を公表した.
 - 2) 学会誌「糖尿病」に同上調査結果を投稿し, 第60巻(2017)12号に掲載された.
 - 3) 同上調査結果を, 英文誌「Diabetology International」(Vol. 9(2018)-No.2に収載予定)および「Journal of Diabetes Investigation」に投稿し, 採択された.
 - 4) 2018年4月19日, 委員会報告内容のスライドPDFファイルを学会ホームページに掲載した.
 21. 膝・膝島移植に関する常置委員会
委員長 稲垣暢也
2017年度は委員会を開催していない.
 22. インクレチン薬治療のヒト膝腫瘍発生リスクに関する(臨床病理学的研究)調査委員会
委員長 八木橋操六
本調査研究の実施は学会倫理委員会より承認を受

け(日糖倫理平27-002号), 全国多施設へのアンケート調査により検索症例の蒐集が試みられた。その結果, 56施設, 約280例の病理解剖例のなかから現在まで約44例の標本が得られ, 病理評価が行われている。対照として非糖尿病20例, およびインクレチン非治療2型糖尿病31例との比較検討も同時に行われている。臨床背景として検索症例は, 比較対照群に比しやや高齢であること, 担癌死が多く大病院死亡例として一般病院例と異なる非均一性の問題点もみられた。糖尿病群ではいずれも罹病期間は10~11年であり, インクレチン関連薬の平均投与期間は16か月であった。これまでの観察から, インクレチン治療群では膝重量, 膝島容積に影響はなく, 2型糖尿病で減少した β 細胞容積に大きな変化はみられていない。これに比し非 β 細胞容積の増大傾向がみられている。一方, 糖尿病症例で多く見られる外分泌病変については, 現在小葉性膵炎や導管内上皮増殖病変の定量的解析を試みている。今後, 膵内分泌細胞のリモデリングの状態を検証するとともに, 外分泌領域での炎症, 増殖病変についてより詳細な検討を試みる予定である。また, インクレチン治療が担癌者にどのような影響をもたらすかの新たな課題もでている。

〈学会認定事業に関する報告〉

23. 専門医認定委員会 委員長 谷澤幸生
委員会は, 書類審査(合否判定含む)7回とその他2回開催された。2017年度の専門医試験は内科404名, 小児科25名(暫定小児科19名含む)合計429名が申請した。書類審査を経て内科394名, 小児科23名(暫定小児科17名含む)の合計417名が筆記・面接試験を受験し内科は267名(申請者合格率67%), 小児科(暫定小児科10名含む)14名(申請者合格率61%)が合格した。研修指導医の新規申請は188名(随時申請26含む), 認定教育施設I 37施設, 認定教育施設II 13施設, 認定教育施設III 1施設, 教育関連施設11施設, 連携教育施設(小児科)3施設が認定された。専門医の更新辞退27名, 資格停止32名, 資格喪失1名, 研修指導医更新辞退5名, 資格停止2名であり, 2018年4月現在の専門医数は5,713名, 研修指導医2,071名, 認定教育施設I 691施設, 認定教育施設II 49施設, 認定教育施設III 7施設, 教育関連施設64施設, 連携教育施設(小児科)24施設である。

2017年度から会員歴を問わず, 小児科専門医取得後3年以上の小児糖尿病診療経験などを申請要件とする「暫定措置による糖尿病専門医(小児科領域)・研修指導医(小児科領域)に関する特例認定規定」

を制定し実施した。

専門医制度規則改訂を次のとおり行った。糖尿病専門医認定申請者の糖尿病患者教育活動には, 認定教育施設等の糖尿病教室の担当を必須とすることとした。暫定措置による糖尿病専門医(小児科領域)の申請要件の小児糖尿病診療経験は, 常勤施設での診療経験とすることとした。

専門医認定委員会は, 現在25名(理事4名含む)で専門医・研修指導医の新規申請と専門医更新申請の書類審査を行っている。7回の書類審査(合否判定含む)で専門医認定委員1名あたりの審査件数平均が122件であった。2018年度から書類審査の開催回数を減らし, 書類審査にかかる専門医認定委員への負担を軽減させるため, 7支部から1名ずつ委員増員することとなった。

2018年3月3日に専門医試験委員会との合同WGを開催し, 口頭試験の在り方, 選択問題の出題範囲に関して検討を行った。

新専門医制度に関して「専門研修整備基準(案)糖尿病領域」が日本内科学会の認定制度審議会で承認され2017年10月6日に日本専門医機構理事会で承認されたが, 当初, プログラム制として作成していたが, カリキュラム制となったため修正が必要になった。日本内科学会に確認し, 日本専門医機構に再提出することで進めることとなった。

24. 専門医試験委員会 委員長 前川聡

2017年5月18日, 第47回専門医試験委員会が開催され, 第28回糖尿病専門医試験にむけて, 試験方法と出題問題の作成分担, 口頭試験担当者, 試験監督担当者を決めた。

8月11日に委員長ならびに数名の理事・委員が, 提出された試験問題のチェックを行った。2014年度より, 選択問題・論述問題それぞれに小児科用問題を設けることとし, 論述問題については全ての問題を内科と小児科と分けて出題された。9月18日に委員全員で試験問題の選定が行われた。

第28回専門医試験は, 2017年10月22日に都市センターホテルにおいて実施した。

受験者は417名で, 11月3日に合否判定案を作成, 11月23日に専門医認定委員会に報告, 281名の合格者(試験での合格率67%)が確定した。今年度も希望のあった受験者に対し成績の開示を行なった。小児科では23名が受験し, 14名の合格(試験での合格率61%)が確定した。

3月3日に専門医認定委員会との合同WGを開催し, 今後の問題出題範囲, 面接の在り方等について検討を行った。

第29回(2018年度)の試験は10月28日(日)パシフィコ横浜にて、第30回(2019年度)の試験は10月27日(日)東京国際フォーラムにて、実施を予定している。

〈その他学会活動に関する報告〉

25. 選挙管理委員会 委員長 稲垣暢也

本委員会は郵便、e-mail等を利用して委員会活動を進めていくこととし、従来の申し合わせに従い、理事会推薦の稲垣暢也委員を委員長とし、以下の事項を確認した。2018年度「会長選挙」の手順は前年度の「会長選挙手順」を踏襲し、

- 1) 支部からの推薦締切日は2017年11月7日とする。
- 2) 推薦された方の意思確認は11月13日までに事務局必着とする。
- 3) 理事長への報告は11月20日までに行う。
- 4) 11月26日の定例理事会で、最終候補者3名を決定する。

2018年2月17日に委員会を開催し、以降の進め方について協議検討した。

- 1) 会長選出手順およびこれまでの手順についてそれぞれ確認した。

2) 所信の確認

2名の候補者から提出された所信について、内容、印刷の字体や文字数、行間隔などを検討し、本人への指摘事項を決定した。

- 3) 学術評議員のうち、メールマガジンでの送付が可能な方へは、メールマガジンにて所信がホームページに掲載されたことを通知し、閲覧を促すこととした。また、学術評議員会で配布する資料に所信を掲載することとした。

4) 学術評議員会での投票手順の確認について

- ①開票作業には、会長候補者のいない支部の出席委員と、候補者のいない支部から委員長が指名した者、委員長を含めて最大9名であたる。
- ②投票用紙配布直前に会場を閉鎖し、回収後開放する。このことは、学術評議員へ候補者の所信を通知する際に記載する。
- ③最多得票者に決定する。両者同数の場合は、今回の候補者は2名とも入会年月日が同じであるため、生年月日の早い者とする。

26. 将来計画委員会 委員長 荒木栄一

2018年3月2日に委員会を開催した。これまでの提言の実現状況の確認や、5ヵ年計画の実現に向けて検討を行った。第1次の委員会を含め本委員会での複数の提言が各委員会での協力のもとで実現化さ

れており、着実に成果をあげている。(一部を下記に記載)

現委員体制となった第2次の委員会は5年余が経過しており、今後は委員の交代をふまえた第3次の委員会での継続が望まれる。

1) 第1次委員会

- ①年次学術集会での学部学生・初期研修医の無料化
- ②「年次学術集会運営委員会」の設置
- ③「若手研究奨励賞(YIA)」の創設

2) 第2次委員会

- ①「女性糖尿病医をpromoteする委員会」の設置
- ②年次学術集会での「若手医師(研修医を含む)向けプログラム」の実施

27. 定款・細則検討委員会 委員長 植木浩二郎

2017年8月19日に委員会を開催した。学術評議員候補者の資格要件、学術評議員の職務の明確化について検討し、細則の改定案を作成し、理事会に上程した。また、女性会員や医療スタッフへの配慮についても今後は検討していくべきであることを確認した。

28. 女性糖尿病医をpromoteする委員会

委員長 成瀬桂子

- 1) 本委員会は、委員会を計3回(2017年5月19日、9月18日、2018年1月21日)、委員会内サブグループ(Gr)による小委員会を計4回(2017年4月9日、4月15日[2 Gr.], 2018年3月24日)開催した。

- 2) 2018年5月で現委員の任期終了を迎えるため、委員長交代および委員会の新体制構築を予定している。

3) 第60回年次学術集会について

シンポジウム「糖尿病学から繋がる未来への懸け橋—ひとりひとりが輝くための道を探る—」を開催した。また、委員会の展示ブースを設置し活動告知のためのチラシ配布・ポスター掲示、また各会場では幕間スライドの上映を行った。

4) 第61回年次学術集会について

本委員会関連シンポジウムとして以下を開催する。

「甦れβ細胞よ!~女性研究者が糖尿病を克服する~」(シンポジウム20)

2018年5月25日(金)14:20-17:20[第16会場(JPタワー4Fホール1+2)]

5) 要望書の提出について

- ①内科学会男女共同参画に関する情報交換会(4

月15日開催)「内科学会および内科系13学会における男女参画に関する調査結果」, および現在解析中の「糖尿病医のキャリアにおける現状調査と、今後の展望に向けたアンケート調査」の中間解析結果について検討し、理事会に対して「学術評議員・委員会の委員について女性が増加するよう配慮すること」「年次学術集会での女性座長数を2019年までに座長総数の20%以上とすること」についての要望書を提出した(末尾, [参考資料]参照).

- ②学術調査研究・教育委員会に対して、リリー賞および若手研究奨励賞・若手研究助成金の規定変更について要望書を提出し、若手研究奨励賞・若手研究助成金における出産・育児・介護に伴う休業取得者に対する救済措置が認められた。

※以下の活動については、委員会内で4つの小グループを設置している。

1) アンケート作成・解析

- ①学会ホームページ内「My Page」を利用して2017年5月8日~6月10日に専門医を対象とした「糖尿病医のキャリアにおける現状調査と、今後の展望に向けたアンケート調査」を実施した。
- ②調査結果をまとめたものを委員会報告として「糖尿病」に投稿し、査読を受けている。

2) 女性研究者 encourage 計画

- ①「日本糖尿病学会 女性研究者賞」(仮称)の新設について理事会に上申し、新設されたワーキンググループを中心に設置に向けた検討が行われている。
- ②第61回年次学術集会では、海外演者を含む女性研究者によるシンポジウムを開催する。

3) 地方会関連講演+広報活動

- ①今年度は5支部(関東甲信越/中部/近畿/中国・四国/九州)の地方会で委員会関連企画(ワークショップやグループディスカッションなど)を開催した。
- ②上記以外の地方会も含め、本委員会活動告知のためのチラシ配布・ポスター掲示・幕間スライドの上映等を実施している。
- ③第61回年次学術集会での活動告知のためのチラシ・ポスター・幕間スライドの内容について検討を進めている。

4) Web サイト拡充

- ①「女性糖尿病医のフロントランナー」について、新記事掲載のための準備を進めている(2015年6月の開設からの累計掲載人数:2名)。「キ

ラリ☆女性医師!」では、これまで「隔月2名」掲載していたところを「隔月1名」の掲載へと変更した(2015年4月の開設からの累計掲載人数:26名)。

- ②新コーナー「キラリ☆女性医師!特別版—イクボス・イクメンからのひとこと」を新設し、第1回の記事を公開した(2017年12月4日)。また新コーナー「ジェンダーフリーな職場づくり推進室」の開設を計画しており、準備を進めている。
- ③ホームページの更新情報は、本委員会からの学会員宛メールマガジンとしての不定期配信・外部ニュースサイトでの告知記事掲載を継続して行っている。
- ④年次学術集会・地方会で企画した関連講演については、講演動画・スライドを適宜「女性医師応援ライブラリ」コーナーに掲載している。

[参考資料]

<女性割合:2018年4月5日時点>

	男	女	全体	男	女
理事	17	1	18	94.4%	5.6%
学術評議員	642	69	711	90.3%	9.7%
専門医	3,975	1,709	5,684	69.9%	30.1%

<年次学術集会:一般演題の女性医師座長割合>

2017年度	2016年度	2015年度
第60回	第59回	第58回
11.8%	22.7%	8.7%

<地方会(2017年度):一般演題の女性医師座長割合>

第51回	第55回	第55回	第91回	第54回	第55回	第55回
北海道	東北	関甲信	中部	近畿	中四国	九州
27.8%	15.8%	20.6%	27.3%	36.9%	29.3%	22.7%

29. 広報委員会 委員長 植木浩二郎

- 1) 委員会開催:なし
- 2) ホームページ改訂について
 - ①全面リニューアルを2018年度内に完了・公開することを目標とし、現在はホームページ委託先業者にてデザイン案を作成している。
 - ②デザイン案の完成次第、委員会での審議を進める予定としている。
- 3) その他
 - 60周年記念行事(2017年12月15日)に合わせてメディアセミナーを開催した。

30. 利益相反委員会 委員長 植木浩二郎
委員会開催:1回(2018年3月1日)

日本内科学会が2017年5月に公表した「内科系関連11学会共通医学系研究の利益相反(COI)に関する指針」一部改正に伴い、本学会もホームページ掲載の共通指針、開示スライド例および各種COIフォームを改定した。さらに、9月に日本内科学会が「診療ガイドライン策定参加資格基準ガイダンス」の策定参加者の議決権に関する基準額を設定するなど「医学系研究利益相反(COI)に関する共通指針」の一部改定を行った。それに伴い本学会における策定参加基準と議決権に関する基準額を含む本学会の指針を検討した。指針案については、2018年5月23日の定例理事会で検討される。定例理事会承認後、2019年5月発行「糖尿病診療ガイドライン2019」策定参加資格審査および2018年8月開催のグレード投票は決定された本学会指針に則って行われることとなる。

31. 糖尿病の保険診療報酬に関する検討委員会

委員長 渥美義仁

医療費抑制といわれながらも、診療報酬全体は下ならず、重粒子線やロボット手術など高額な先進技術が拡大した2018年の医療費改訂であった。糖尿病学会が内保連を通して提案した案件の内、提案書通りに認められたのは、人工臓腑の非現実的であった施設基準の改訂、IA2検査の年齢制限撤廃であった。今後、世界で唯一臨床に用いられている人工臓腑の活用が進むことが期待される。CGMの施設基準緩和は、専門医2人を専門医1人とCDEJレベルの医療スタッフの2人への変更を提案したが、専門医1人のみと、安全安心な運用へのCDEJ活用は採用されなかった。持続皮下グルコース測定時代に求められる、膨大なデータの解析整理や指導を行うCDEJ相当のスタッフによるデータマネジメントの評価は実現できなかった。また、糖尿病以外の科に入院した糖尿病患者のステロイド治療や周術期など多くの糖尿病管理に対する、糖尿病専門医の併診やコンサルテーションの負荷に対する評価の提案も実現しなかった。今回実現できなかった案件を中心に、今後も糖尿病患者の安全安心な治療への学会員の活動が適正に評価されるよう最大限努める予定である。

〈対外的活動に関する報告〉

32. 国際交流に関する報告 委員長 稲垣暢也

1) 国際糖尿病連合 (IDF) 関連

2017年12月4日～8日にアブダビにて開催されたIDF Congress 2017の会期中に、IDF-WPR Executive Board Meeting, IDF-WPR Council Meeting, IDF General Assemblyが開催された。また、Global

Village への出展を行った。

○出席者

- ・IDF-WPR Executive Board Meeting : 門脇孝
- ・IDF-WPR Council Meeting : 門脇孝, 清野裕, 堀田饒, 稲垣暢也, 矢部大介
- ・IDF General Assembly : 門脇孝, 稲垣暢也, 清野裕, 堀田饒, 矢部大介

○主要事項

①IDF 関連

①-1 IDF Congress :

IDF Congress 2017-Abu Dhabi, UAE (2017年12月4日～8日)

IDF Congress 2019-Busan, Korea (2019年12月2日～6日)

①-2 IDF President/President Elect :

President には, Shaukat M Sadikot (India) に変わり, Nam H. Cho (Korea) が就任し, President Elect には Andrew Boulton (UK) が選出された。

①-3 IDF の事業 : IDF-School of Diabetes,

Blue circle voices, Young Leaders in Diabetes について概略の説明がされた。

②IDF-WPR 関連

②-1 IDF-WPR Congress :

12th IDF-WPR Congress-Kuala Lumpur, Malaysia (2018年11月, 10th AASD Scientific Meeting と同時開催)

13th IDF-WPR Congress-北京, 中国 (2020年, 12th AASD Scientific Meeting と同時開催)

②-2 IDF-WPR Chair/Chair Elect :

Chair には, Wayne H. Sheu (Taipei) に変わり, Linong Ji (China) が就任し, Chair Elect には, Moon Kyu Lee (Korea) が選出された。また, Executive Board の一人として門脇孝が選出された。

②-3 IDF-WPR の事業 :

IDF-WPR の事務所及び銀行口座を Kuala Lumpur (Malaysia) に設置することに決定した。

Myanmar Diabetes Association (Myanmar), Korean Diabetes Society (Korea) が加盟団体として承認された。

②-4 IDF-WPR executive committee meeting :

2018年2月7日, ウェブ会議として開催され門脇孝が出席した。

2) EASD 関連

2017年9月12日-15日にリスボンにて開催されたEASD2017の会期中に、East-West forumに関する会議と、日欧交換留学プログラムに関する会議を開催した。また、Association Villageへの出展を行った。

○出席者

- ・ East-West forumに関する会議：稲垣暢也，矢部大介
- ・ 日欧交換留学プログラムに関する会議：門脇孝，稲垣暢也，植木浩二郎，矢部大介

①East-West Forumに関する会議

EASD2017の会期中に、第6回East-West Forumが開催されたことを確認し、次回は2018年の第61回年次学術集会のプログラムとして「Diabetes Care in the Ageing Adult」をテーマとし企画することで合意した。

②日欧交換留学プログラムに関する会議

応募書類の審議を行うとともに、次年度の事業継続を合意した。

日欧交換留学プログラムは、最終的に以下3名への助成が決定した。

野村和弘（神戸大学），木戸康平（立命館大学），Karim Bouzakri（University of Strasbourg）

3) AASD 関連

① AASD Scientific Meeting の開催

9th AASD Scientific Meeting が2017年5月19日—20日，名古屋にて開催された（会長：中村二郎，第60回年次学術集会と同時開催）。

前日18日にはAASD-Executive Board Informal Meeting が開催された。

○出席者：清野裕，堀田饒，門脇孝，稲垣暢也，谷澤幸生，山田祐一郎，矢部大介

また，会期中，AASD Award の授賞式が行われ次の3名が受賞した。

The Yutaka Seino Distinguished Leadership Award：堀田饒

The Masato Kasuga Award for Outstanding Scientific Achievement：矢部大介

The Xiaoren Pan Distinguished Research Award for Epidemiology of Diabetes in Asia：Weiping Jia

② JDI

9th AASD Scientific Meeting 会期中にJDI編集会議を開催した。

4) 日韓糖尿病フォーラム関連

①第3回日韓糖尿病フォーラム

2017年5月11日—13日に韓国・釜山にて，第

3回日韓糖尿病フォーラムが開催された。

プレナリー 門脇孝，シンポジスト：古家大祐，綿田裕孝，山田祐一郎，矢部大介

②第4回日韓糖尿病フォーラム

2017年5月20日（第60回年次学術集会会期中）に，韓国側の代表者と日本側の委員で会合を開催し，2019年に仙台で開催予定であった第4回以降は，規模を縮小して「Japan-Korea Diabetes Session」とし，お互いの学術集会の中で，開催することが決定した。

33. 日本医学会に関する報告 評議員 植木浩二郎
従来印刷物として配布されていた「日本医学会だより」の印刷が廃止され，HPからの閲覧のみとなった。第151回日本医学会シンポジウムが「医療における“賢明な選択（Choosing Wisely）”を目指して」をテーマに2017年6月1日，日本医師会館で開催された。

日本医学会連合の定時総会が2017年6月15日に開催され，2016年度日本医学会連合事業報告及び決算，2017年度日本医学会連合会費徴収および，日本医学会連合役員選任の3件の議題について承認可決された。同日開催の評議員会で，本学会の門脇孝理事長が副会長（臨床部会）に選出され就任した。

第85回日本医学会定例評議員会が2018年2月28日に開催され，日本再生医療学会の加盟が決定された。また，2023年開催の第31回日本医学会総会会頭に本学会の春日雅人名誉会員が選出されたことが報告された。

第30回日本医学会総会2019中部において，各分科会の紹介ポスター・ビデオの作成・展示依頼があり，本学会も参加することとした。

現在の糖尿病学会の各代表委員は以下の通りである。

評議員：植木浩二郎 連絡委員：荒木栄一
用語委員：綿田裕孝 用語代委員：島田朗

34. 糖尿病総合対策への取り組みに関する報告

委員長 門脇孝

第60回年次学術集会でのシンポジウムの1つとして，2017年5月19日に行われた「糖尿病対策推進会議を通じた腎症重症化予防への取り組み」において口演いただいた厚生労働省保健局国民健康保険課の担当課長より，「糖尿病腎症重症化予防における市町村担当糖尿病専門医を委嘱」する要望があり，糖尿病学会として対応することとした。

まず，これを機会に各支部で「糖尿病対策推進会議の各都道府県の委員」を2名ずつ改めて選任いた

だき、代表者および副代表者とした。

次いで、都道府県ごとの実情に応じて、二次医療圏、郡市医師会、または市町村ごとの担当者を代表者および副代表者から推薦していただき、2018年6月末までにまとめる予定である。

1) 「対糖尿病戦略5ヵ年計画」作成委員会

委員長 綿田裕孝

本委員会は、第4次「対糖尿病戦略5ヵ年計画」の作成に向けて、2017年5月17日の定例理事會での承認により発足した。その後、2017年9月3日、2018年3月2日に委員会が開催され、本計画作成の方向性について話し合われた。その結果、本委員会では、まず第3次計画の達成度の検証を行うことが確認された。次に、第4次計画終了後の具体的実現目標として、1) 糖尿病の新規発症数を減少に転じさせること 2) 糖尿病患者のQOLを改善させ健康寿命を延伸させることを掲げ、これを実現するための具体的戦略として、①糖尿病先端研究の結実、②包括的データベースによるエビデンス構築、③1,000万とおりの個別化医療構築に向けた基盤整備、④将来の糖尿病対策を担う人材育成、⑤国民への啓発と情報発信をとりあげることとした。この内容で、2020年までにリーフレットを作成することとした。そして、それぞれの章の執筆担当者を決定し、初稿の作成期限を2018年7月上旬とした。

2) 「健康日本21」の糖尿病対策検討委員会

委員長 荒木栄一

- 1) 委員会開催：糖尿病対策検討委員会の開催はなし。
- 2) 委員会活動

前回から年次学術集会のプログラムの一つとして組み込まれることとなった、糖尿病対策推進会議地区担当者連絡会議に代えて、第60回日本糖尿病学会年次学術集会においては、「シンポジウム10 対策推進会議を通じた腎症重症化予防への取り組み」が第2日目となる2017年5月19日に名古屋国際会議場にて開催された。

国の取り組みとして「糖尿病性腎症重症化予防に向けた国の取組について」(厚生労働省) および「糖尿病腎症重症化予防プログラム研究班の進捗」、自治体の取り組みとして「埼玉県の取り組み」および「寝屋川市の取り組みと糖尿病対策推進会議との連携への期待」、保健者の取り組みとして「市町村保険者及び国保連合会の取り組みと糖尿病対策推進会議との連携への期待」がそれぞれ発表された。

また、日本糖尿病対策推進会議の幹事団体である医師会、糖尿病協会および糖尿病学会からはそれぞれ「日本糖尿病対策推進会議による腎症重症化予防の取り組み：日本医師会の立場から」、「日本糖尿病対策推進会議を通じた腎症重症化予防への取り組み、日本糖尿病協会の立場から」、「腎症重症化予防に向けた日本糖尿病学会の活動」が発表された。

3) 糖尿病データベースの構築委員会

委員長 植木浩二郎

日本糖尿病学会では現在、JDCP studyとJ-DREAMSという2つの大規模データベースを有している。JDCP studyはベースラインの解析を終え論文化され、順次フォローアップの解析も論文化予定である。また、J-DREAMSは国立国際医療研究センターとの合同事業として現在43施設が参加し35,000名以上が既に登録され、今後施設数・登録患者数を拡大していく予定である。

(1) JDCP study 委員長 西村理明

JDCP studyは、対象とした糖尿病患者6,338例を8年間追跡する観察研究である。2017年10月末日で、登録症例の追跡を終了とした。観察期間3年、5年および8年の追跡率は、それぞれ、81.5%、72.3%、および55.8%である。

ベースラインの情報に関しては、1型糖尿病ならびに2型糖尿病患者について「糖尿病」並びに「Diabetology International」誌に報告済、網膜症については投稿中である。現在、腎症WG、神経障害WG、歯周病WGが、ベースラインデータの論文化に取り組んでいる。

また、食事療法WGと運動療法WGは、合同で解析を進めることが決定し、論文化が進行している。大血管WGは、追跡開始3年後までの生命表解析の論文化が可能となるよう、イベント判定を進めている。

本研究にご協力頂いた医療機関の諸先生、医療スタッフの方々に心から御礼を申し上げます。

(2) 診療録直結型全国糖尿病データベース事業 (J-DREAMS) 委員長 荒木栄一 合同委員会

日本糖尿病学会選出委員：荒木栄一、曾根博仁、谷澤幸生、矢部大介、吉岡成人、綿田裕孝

- 1) 委員会開催：1回 (2017年11月26日)
- 2) J-DREAMS参加施設による全体会議：1回

(2018年2月3日)

3) 昨年度の NCGM 側委員の増員 (大杉満委員) に伴い、本学会から新たに吉岡成人委員が就任した。

4) 2015年度に始動した診療録直結型全国糖尿病データベース事業「J-DREAMS (Japan Diabetes compREhensive database project based on an Advanced electronic Medical record System)」について、2018年3月31日時点で35施設が参加し、32,617症例登録され、目標であった30,000症例を達成した。

今後も参加施設数と症例登録数の増加を目指す。データ入力に使用している各ベンダー (IBM, 富士通, NEC, ソフトウェアサービス, FINDEX) のテンプレートについては、使い勝手や継続性の向上を目指し改善に取り組んでいる。

35. 分科会に関する報告

日本糖尿病合併症学会 理事長 中村二郎

日本糖尿病学会の分科会である日本糖尿病合併症学会は、第32回日本糖尿病合併症学会年次学術集會を、石田均会長 (杏林大学大学院) の下、第23回日本糖尿病眼学会総会と合同で2017年10月27日~29日の3日間、京王プラザホテルにて開催した。

年次学術集會は、シンポジウムが合併症学会として4題、眼学会と合同で4題、そして一般演題は例年通り全てワークショップ形式で行われた。市民公開講座も10月29日に開催された。本学会が設けた学会賞各賞の受賞者は以下の各先生で、Outstanding Foreign Investigator Award は Dick De Zeeuw 先生 (Department Clinical Pharmacy and Pharmacology, UMCG, Groningen, the Netherlands), Distinguished Investigator Award は 榎野博史先生 (岡山大学) と 及川眞一先生 (複十字病院), Expert Investigator Award は 中村二郎先生 (愛知医科大学), Young Investigator Award は 神田敦宏先生 (北海道大学大学院), 姫野龍仁先生 (愛知医科大学), 脇裕典先生 (東京大学大学院) に贈呈され、受賞講演が行われた。

第33回日本糖尿病合併症学会年次学術集會は、柴輝男会長 (東邦大学医療センター大橋病院) の下、2018年10月19, 20日の2日間、都市センターホテル・東京ガーデンテラス紀尾井カンファレンス, JA 共済ビルカンファレンスホールにて開催されることが決定している。

学会の機関誌「糖尿病合併症」は抄録号を含め3回発行された。

36. 日本糖尿病協会委員会 担当理事 稲垣暢也
今年度には、本委員会の開催は行われなかった。

37. WHO ICD-11 医学・科学諮問委員会報告

共同議長 田嶋尚子

1) WHO 国際疾病分類 ICD-11 の改訂作業は、2018年6月に公表されることになった。

2) MSAC の新しい委員として、日本から、柏井聡 (眼科), 渡辺賢治 (伝統医学) および名越澄子 (消化器疾患) の3先生が選出された。

3) MSAC の役割は、死亡・疾病統計分類を主に担当する、分類・統計諮問委員会 (Classification and Statistics Advisory Committee ; CSAC) と協力し、ICD-11 改訂作業を推進することである。具体的な作業として、ICD-11β 版上の疾患や項目のうち、description (説明, 短い定義) の記載に課題が残されている約4000項目のレビュー、proposal platform に寄せられた提案, 意見, その他への対応などで、月1回国際電話会議を開催しこれらに対応している。

4) 糖尿病に関しては、ICD-11β 版に記載がない Diabetic Kidney Disease (DKD) の proposal, 「その他の糖尿病」の分類項目がオーバーラップしているのではないか、という指摘に対するコメントであり、いずれも、国立国際医療研究センターの安田和基, 杉山雄大, 今井健二郎の3先生に担当していただき、厚労省国際分類情報管理室からご助言をいただいた。DKD については、門脇孝理事長 (日本糖尿病学会) と 柏原直樹理事長 (日本腎臓学会) のお名前前で proposal を提出した。

5) 2017年度に開催された国際会議は以下のとおりである。

①2017年9月1日~2日, WHO 担当官 来日 ICD-11 国内適応検討会議, 東京
厚労省主催・一般社団法人日本内科学会共催で開催され、招待演者として海外から WHOICD-11 担当官 Dr. Robert Jakob はじめ3名を招聘、国内検討会委員約50名が参集し、国内への ICD-11 導入に向けての活発な討論、ならびに WHO による専門別個別指導などが行われた。

②2017年10月16日~21日, WHO 国際統計分類ファミリー (WHO Family of International Classifications ; WHO-FIC), メキシコ市
日本から厚労省, 日本病院会, 国内検討委員会のメンバー15名が参加した。MSAC Session では、会場とインターネットを利用した遠隔参加により、MSAC の役割, ガバナンス, ICD-11

の現況について意見交換が行われた。

〈合同委員会に関する報告〉

38. 糖尿病性腎症合同委員会 世話人 植木浩二郎
日本糖尿病学会選出委員：植木浩二郎, 宇都宮一典,
古家大祐, 馬場園哲也, 綿田裕孝

本年度上期には委員会は開催していないが、
ICD-11におけるDKDの取扱いについて、委員会内で
協議し了承した案についてWHOに提案する案を提出した。

第43回糖尿病性腎症合同委員会は2017年12月3
日に、都市センターホテルで開催した。

39. 膵臓移植中央調整委員会/移植関係学会合同委員
会/臓器移植関連学会協議会

1) 膵臓移植中央調整委員会 委員長 岩本安彦
日本糖尿病学会選出委員：栗田卓也, 稲垣暢也, 岩
本安彦

2017年9月7日と2018年3月2日に委員会を開
催した。

主な活動は以下の通りである。

- 1) 2018年2月20日現在の膵臓移植希望者申請
書類受付は813件。2019年1月30日現在の
ネットワーク登録済み待機患者数は205件
(うち腎臓同時移植160件, 膵単独移植45件),
死体膵移植済み331件, 生体膵移植5件, 待
機中死亡57件, 取り消し71件。
- 2) 移植希望者の待機 (inactive) 制度について
は、2018年4月24日に開催される膵臓移植
作業班の会議にて審議され、その後厚生労働
省の臓器移植委員会にて承認される予定であ
る。
- 3) 2017年3月10日の委員会で実施施設として
更新が承認された18施設に「膵臓移植実施
施設認定証」を発行した。更新期間は2017年4
月1日から2022年3月31日まで5年間とす
る。
- 4) 移植希望者データベースを活用し、待機中死
亡患者に関する解析を行った結果が報告され
た。
- 5) 新規の施設申請 (埼玉医科大学) について審
査手続きを進めている。
- 6) 日本臓器移植ネットワークへのレシピエント
登録の迅速化に向けて登録手続きの変更を進
めている。
- 7) 改正個人情報保護法の施行を受けて日本臓器
移植ネットワークの情報提供指針が変更され
たことに伴い、中央調整委員会への情報集約

の仕組みを新たに検討している。

2) 移植関係学会合同委員会

委員 稲垣暢也, 岩本安彦

2017年度は、持ち回り審議は行われていない。

3) 日本臓器移植関連学会協議会

日本糖尿病学会 世話人 岩本安彦

2017年4月15日, 2018年1月13日の2回開催され
た。(公社)臓器移植ネットワークより、あっせん誤
りの再発防止等に関する第三者調査チームによる提
言と、提言を受けての対応策が示された。厚生労働
省が臓器移植法改正後の臓器移植の現状や提供施設
の環境整備の検討案を示した。また、新規加入学会
として「(一社)日本小児神経学会」「(一社)日本小
児神経外科学会」「(一社)日本TDM学会」「(一社)
日本医療薬学会」「(一社)日本がん薬剤学会」が承
認された。

40. 糖尿病医療の情報化に関する合同委員会

委員長 谷澤幸生

日本糖尿病学会選出委員：谷澤幸生, 植木浩二郎,
古賀龍彦, 中神朋子, 野田光彦, 林道夫, 山崎勝也

- 1) 合同委員会開催：2回 (2017年5月19日, 11月
23日)
- 2) 以下を開催した。
 - ①第60回年次学術集会 医療情報学会との合同
シンポジウム「IoT (モノのインターネット)
と糖尿病」(2017年5月19日)
 - ②第37回医療情報学連合大会 共同企画「公的
研究資金による糖尿病に関連する Personal
Health Record (PHR) 実証事業」(2017年11
月23日)
- 3) 以下の開催を予定している
 - ①第61回年次学術集会 日本医療情報学会合同
シンポジウム「世界最大級の医療 Real World
Data, NDBを用いた糖尿病研究」(2018年5月
24日 8:30~11:30)
 - ②第38回医療情報学連合大会 日本医療情報学
会合同シンポジウム
(内容未定, 2018年11月22日~25日 福岡市)
- 4) 本合同委員会より派生した「6臨床学会拡大会議
(日本糖尿病学会/日本高血圧学会/日本動脈硬化学
会/日本腎臓学会/日本臨床検査医学会+日本
医療情報学会)」について
 - ①拡大会議開催：2回 (2017年7月27日, 2018
年3月15日)
 - ②国立研究開発法人日本医療研究開発機構
(AMED)の2016年度公募事業「パーソナル・
ヘルス・レコード (PHR) 利活用研究事業」に

採択されている「生活習慣病重症化予防 PHR モデルに関する研究」(代表機関：医療情報システム開発センター [MEDIS-DC]) について情報共有および協議を行なっている。

- ③本拡大会議の協議では、これまでに確立した4疾患のミニマム項目セット、自己管理項目セットに基づいた「PHR 推奨設定」を策定している。
 - ④PHR 推奨設定の策定過程で、ミニマム項目セット・自己管理項目セットについても改訂の必要があり、案を作成した。
 - ⑤ミニマム項目セット・自己管理項目セットの改訂案については、本学会を含めた各臨床学会の理事会承認を得ることを予定している。
 - ⑥来年度は、2018年7月～9月/2019年2月～3月の2回の開催を予定している。
- 5) 2014年度に承認された以下研究課題への「研究協力および連携」につき、当該研究課題が2015年度厚生労働科学研究費補助金の交付課題として採択されたため、今後実際に協力を行っていく予定としている。

研究課題：

満武巨裕先生(一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構)
「レセプト情報・特定健診等情報データベースを利用した医療需要の把握・整理・予測分析および超高速レセプトビッグデータ解析基盤の整備」

41. 糖尿病と癌に関する合同委員会

代表委員 植木浩二郎

日本糖尿病学会選出委員：大橋健、田嶋尚子、野田光彦、綿田裕孝

がん主治医と糖尿病専門医を対象に実施するWebアンケート調査「がん治療中の糖尿病管理に関する調査」について、実施に向けた準備を進めている。

- 1) 2017年11月28日に代表植木と野田委員、大橋委員、能登洋オブザーバー、後藤温オブザーバーの5名で、調査項目詳細検討のための小委員会を開催した。
- 2) 各Webアンケートシステム(がん主治医用、糖尿病専門医用)を本学会で作成し、がん主治医の回答については日本癌治療学会に協力を依頼することを予定している。

42. 日本肝臓学会・日本糖尿病学会合同委員会

代表委員 荒木栄一

日本糖尿病学会選出委員：春日雅人、島野仁、井上

啓、綿田裕孝、窪田直人

2017年5月20日に第4回肝臓と糖尿病・代謝研究会が名古屋にて開催された(第60回年次学術集会と同時開催、事務局担当：日本糖尿病学会)。プログラムとして、シンポジウム2つ(計12演題)、YIAセッション(6演題)、ランチョンセミナー(1演題)、一般演題(口演13演題、ポスター27演題)が行われた。また、肝臓学会と糖尿病学会の連携を基盤とした研究「糖尿病外来における肝細胞癌発生の実態把握」について経過報告が行われた。

次回(第5回)研究会(2018年7月21日開催予定 於 米子)に関する打ち合わせを、2018年2月3日に開催し、以下の結論に至った。

- 1) 第5回研究会のテーマは「肝臓病と糖尿病：異病同態」とする。
- 2) 特別講演、シンポジウム、ワークショップ、一般演題(口頭、ポスター討論)の他、共同研究の報告を行う。
- 3) 参加費、YIA、専門医制度認定単位等は、これまでと同様とする。
- 4) 一般演題の募集期間は、平成30年2月6日～4月26日とする。
- 5) 一般演題の会員チェックの徹底や、選考に関する内規の整備を行い、それに沿って進める。
- 6) 翌日に市民公開講座を開催する。

その他、打ち合わせでは、第6回研究会概要についての報告と、AMED研究課題「糖尿病外来における肝細胞癌発生の実態把握」の報告がなされた。また、研究会立ち上げ当初に第6回までの開催を決めていたが、さらに6回継続して開催し、それ以降については改めて検討する旨、両学会で合意した。

尚、AMED研究課題「糖尿病患者における肝細胞癌発生の実態把握とその分子機構」の進捗状況は以下の通りである。

臨床研究においては、糖尿病学会および肝臓学会双方の教育認定施設より得られた肝癌発症2型糖尿病患者276名のうち、解析可能な条件を満たす症例246例に、厚生労働省科学研究費「非アルコール性脂肪性肝疾患の病態解明と診断法、治療法の開発に関する研究」(岡上班)で得られている肝癌発症2型糖尿病症例18例を加えた264例をその対象者とした。この264例のうち欠損値のない191例に対して、同岡上班研究の非肝発症例3340例から年齢、性をマッチさせた764例を抽出、その両群の比較検討を行った。その結果、BMI高値、血清アルブミン低値、 γ -GTP高値、高血圧症合併、FIB-4 index高値が有意な発癌危険因子であることが明らかとなった。

一方、基礎研究においては、①gold thioglucose 処

理-脂肪・スクロース過食誘導肝癌発生マウスにおいて、その肝癌発症機序に p53-Gls2 カスケード攪乱による酸化ストレス増加が関与する可能性が、② STAM™ マウスを用いた検討で、本マウスでの発症の機序に、インスリン作用不足と腸内細菌叢の関与の可能性が、③DEN 投与マウスを用いた検討で、IRS-1 発現増加とインスリンシグナルの活性化が肝癌発症に関与する可能性が、示唆された。

上記結果の一部は、「平成 29 年度 AMED 4 事業合同成果報告会」(平成 30 年 2 月 13 日開催)で報告した。

今後の予定：

- ①臨床研究については、さらに詳細な統計解析を行った後に、結果を取りまとめ、論文作成を予定している。また、日本糖尿病学会、日本肝臓学会およびその関連学会での報告も予定している。
- ②基礎研究については、論文・学会報告を行うと同時に、臨床研究の結果とのすり合わせを行い、肝癌発症に関する共通因子を検索する予定である。
- ③さらに、臨床・基礎研究の結果を踏まえた、新たな前向き試験の実施を検討している。

43. 日本糖尿病・妊娠学会と日本糖尿病学会の合同委員会
代表委員 荒木栄一
日本糖尿病学会選出委員：荒木栄一(代表委員)、植木浩二郎、田中逸、綿田裕孝

2017 年 5 月の理事および会務の交代をふまえて、本学会の委員 4 名のうち、羽田勝計委員と渥美義仁委員が退任し、荒木栄一委員と田中逸委員が新委員に就任した。

今年度は合同委員会の開催はなし。

44. 高齢者糖尿病の診療向上のための日本糖尿病学会と日本老年医学会の合同委員会

代表委員 羽田勝計
日本糖尿病学会選出委員：羽田勝計、稲垣暢也、鈴木亮、綿田裕孝

「高齢者糖尿病診療ガイドライン 2017」を策定し、第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会(2017 年 5 月 18 日開催)で刊行した。その英語版を各章 CQ の要約を翻訳業者に依頼し校閲作業中であり、DI と GGI 同時期に掲載予定で準備を進めている。掲載時期は来年度を予定している。また、「高齢者糖尿病治療ガイド 2018」も名誉会員、功労学術評議員、学術評議員からパブリックコメントを募集し、日本老年医学会に寄せられたコメントとともに 3 回委員会を開催し活発な議論を行い、第 52 回「糖尿病学の進歩」(2018 年 3 月 1 日開催)で刊行した。ご協力頂いた

「糖尿病治療ガイド」編集委員会の先生方に感謝申し上げます。

〈その他の報告〉

45. 日本糖尿病学会創立 60 周年記念事業

理事長 門脇孝

【開催日】2017 年 12 月 15 日(金) 13:00~20:00
記念シンポジウム 13:00~16:20 記念式典 16:20~17:05 記念講演 17:05~17:35 祝賀会 18:00~20:00

【会場】一橋講堂(記念シンポジウム・記念式典・記念講演)、学士会館(祝賀会)

【宣言】日本糖尿病学会 60 周年の誓い—DREAMS 新たなステージへ—

【参加者数】シンポジウム 306 名、記念式典・記念講演 290 名、祝賀会 192 名

【制作物】レジュメ、宣言チラシ(表：日本語/裏：英語)、ロゴマーク、記念ピンバッジ(当日参加者全員に配布)、広報用のポスター(本会認定教育施設 818 に配布)

【常務理事役割分担】

	主担当	副担当	
実行委員長	門脇孝		(理事長)
準備委員長	植木浩二郎		(庶務担当)
財務	谷澤幸生	中村二郎	(会計担当)
出版	荒木栄一	谷澤幸生	(編集担当)
シンポジウム	羽田勝計	荒木栄一	(学術調査研究・教育担当)
式典・祝賀会	稲垣暢也		(国際交流担当)

1) 学会創立 60 周年記念誌作成委員会

委員長：荒木栄一

委員：大澤春彦、大沼裕、近藤龍也、笹子敬洋、高本偉碩、谷澤幸生、難波光義、藤田浩樹、山田祐一郎、吉岡成人

「学会創立 60 周年記念誌」は作成委員会を 4 回開催した(2017 年 6 月 16 日、9 月 9 日、9 月 25 日、10 月 9 日)。本誌の構成は、50 周年以降から今日に至る最近 10 年間のトピックスを中心に、50 周年記念誌に準じ連続性を鑑み、ここ 10 年の新しい治療薬、糖尿病研究、学会活動、国際交流活動、他学会との協力関係などを糖尿病診療で大きく変化した出来事をまとめ作成された。

冊子は 11 月 30 日納品され、記念シンポジウム参加者に参加特典として当日配布した。その後、名誉会員、功労学術評議員、学術評議員、賛助会員、認定教育施設へ発送した。全会員向けには、記念行事終了後に「電子ブック」形式で学会ホームページに公開した。冊子を希望する学会員には 1 冊 2,000 円

でオンライン販売も行っている。

- 2) 記念シンポジウムは、春日雅人前理事長、羽田勝計元常務理事の司会のもと、「日本糖尿病学会創立60周年10年間の進歩と今後の展望」をテーマに19名の演者による講演を行った。記録として写真を事務局で保管することとした。
- 3) 記念式典は、門脇理事長による代表挨拶の後、厚生労働省、文部科学省、日本医療研究開発機構 (AMED)、日本医師会、日本医学会、日本糖尿病協会、日本糖尿病財団の来賓から祝辞を賜わり、滞りなく式典が執り行われた。閉会の辞の後、植木浩二郎常務理事が「日本糖尿病学会60周年の誓い—DREAMS 新たなステージへ—」を宣言した。閉会后に、宣言 (表: 日本語/裏: 英語) のチラシを参加者に配布した。宣言については、当日記念シンポジウム開始前に、メディアセミナーを開催し発表した。記録として動画と写真を事務局で保管することとした。
- 4) 記念式典に引き続き、記念講演が開かれ、赤沼安夫元理事長の司会のもと、葛谷健名誉会員より「学会設立のいきさつと、当時の現在の比較」の講演が行われた。この講演内容は学会誌「糖尿病」第61巻第3号 (2018年3月30日オンライン公開) 掲載、および本会ホームページ My Page での動画配信も開始した。
- 5) 祝賀会は、海外からの来賓 IDF-WPR Regional Chair の Linong Ji、日本医師会 今村聡副会長よりご祝辞を賜わり、垂井清一郎名誉会員の乾杯の発声を頂いた。また4名の名誉会員からご挨拶を頂いた。歓談中は過去10年間の年次学術集会や糖尿病学の進歩が作成したビデオを放映した。最後に門脇孝理事長から謝辞を述べ、閉会した。

46. 重篤副作用疾患別対応マニュアル改定委員会「低血糖」委員会 委員長 綿田裕孝
厚生労働省の依頼により本学会が中心になって作成され、現在厚生労働省のHPに掲載されている、「高血糖マニュアル」(2009年5月作成) および「低血糖マニュアル」(2011年3月作成) について、新たな薬剤を加えて更新する依頼があり、2017年6月にそれぞれを改定するための委員会が発足した。

- 1) 高血糖 = 佐倉宏委員長 (東京女子医科大学)、西村理明委員 (東京慈恵会医科大学)、山内敏正委員 (東京大学)
- 2) 低血糖 = 綿田裕孝委員長 (順天堂大学)、岩倉敏夫委員 (神戸市立医療センター中央市民病院)、鈴木亮委員 (東京大学)

2017年度内の改定に向けて、「低血糖」委員会は

2017年8月26日に、「高血糖」委員会は9月14日にそれぞれ第1回の委員会が開催された。

本件の取りまとめを厚生労働省から委託されている日本病院薬剤師会の協力を得て両委員会で作業を進めている。「低血糖」委員会では、各委員の担当箇所の入稿は終了済みで、日本病院薬剤師会の入稿を待機中である。

3. 「糖尿病学の進歩」開催について

第54回「糖尿病学の進歩」

会期 2020年3月13日 (金)~14日 (土) (予定)

会場 石川県立音楽堂, ANA クラウンプラザホテル, ホテル日航金沢 (予定)

世話人 古家大祐 (金沢医科大学)

※第55回「糖尿病学の進歩」の開催支部が北海道支部に決定した。

4. 2017年度収支決算に関する件

定時社員総会で審議の上、2017年度収支決算書が承認可決された。(本号 p62~p87)。

5. 2019年度事業計画に関する件

定時社員総会で審議の上、2019年度事業計画が承認可決された。(本号 p88~p89)。

6. 名誉会員の推薦に関する件

理事会が推薦した清野進会員と小泉順二会員が定時社員総会において承認された。

7. 次々会長 (第64回学術集会) の選任に関する件

学術評議員会にて投票により第64回会長に戸邊一之会員が選出され、定時社員総会において承認された。

8. 第62回年次学術集会に関する件

2019年5月23・24・25日の3日間、仙台国際センターほかにおいて開催の予定である。

9. 理事および監事の承認に関する件

各支部から推薦された18名の理事候補者と学術評議員会から推薦された2名の監事候補者の就任が定時社員総会において承認された。

1. 理事

北海道支部	吉岡 成人	NTT 東日本札幌病院
東北	片桐 秀樹	東北大学大学院
関東甲信越	植木浩二郎	国立国際医療研究センター
	宇都宮一典	東京慈恵会医科大学
	門脇 孝	東京大学医学部附属病院/帝京大学医学部(*)
	島田 朗	埼玉医科大学
	田中 逸	聖マリアンナ医科大学
中部	戸邊 一之	富山大学
	中村 二郎	愛知医科大学
近畿	稲垣 暢也	京都大学大学院
	小川 渉	神戸大学大学院
	下村伊一郎	大阪大学大学院
中国・四国	大澤 春彦	愛媛大学大学院
	谷澤 幸生	山口大学大学院
九州	荒木 栄一	熊本大学大学院
	西尾 善彦	鹿児島大学大学院

以上 18 名

*2018 年 6 月より東京大学大学院/帝京大学医学部

2. 監事

	山田祐一郎	秋田大学大学院
	馬場園哲也	東京女子医科大学糖尿病センター

以上 2 名

10. 各種委員会委員の交代等に関する件

任期満了に伴い下記委員会の委員が交代することとなった。

1. 英文誌 Diabetology International 編集委員会

■ 2018 年度選出 (任期: 2018 年 5 月~2022 年 5 月)

無 2016 年度選出 (任期: 2016 年 5 月~2020 年 5 月)

※ 2018 年度選出 (任期: 2018 年 5 月~2020 年 5 月) 前任者の支部移動に伴い選出

北海道支部	■ 斎藤 重幸 羽田 勝計	札幌医科大学 旭川医科大学
東北支部	■ 山田 祐一郎 ※ 島袋 充生	秋田大学大学院 福島県立医科大学
関東甲信越支部	■ 石原 寿光	日本大学
	■ 竹本 稔	国際医療福祉大学
	■ 弘世 貴久	東邦大学
	佐藤 博亮	順天堂大学
	島田 朗 宇都宮一典	埼玉医科大学 東京慈恵会医科大学
中部支部	■ 篁 俊成 戸邊 一之	金沢大学大学院 富山大学

近畿支部	■ 細岡 哲也	神戸大学大学院
	■ 田中 大祐	京都大学大学院
	荒木 信一 西 理宏	滋賀医科大学 和歌山県立医科大学
中国・四国支部	■ 和田 淳 松久 宗英	岡山大学大学院 徳島大学
九州支部	■ 田尻 祐司	久留米大学
	■ 前田 士郎 中島 直樹	琉球大学大学院 九州大学病院

Assistant Editor (委員長 (Editor-in-Chief) の交代に伴い選出)

氏名	所属
藤田 征弘	旭川医科大学
金崎 啓造	金沢医科大学
森野勝太郎	滋賀医科大学

2. 小児糖尿病委員会

2018 年度選出 (任期: 2018 年 5 月~2022 年 5 月)

北海道支部	母坪 智行	さっぽろ小児内分泌クリニック
東北支部	高橋 和眞	岩手県立大学
関東甲信越支部	浦上 達彦	日本大学病院
	杉原 茂孝	東京女子医科大学東医療センター
	菊池 信行	横浜労災病院小児科
中部支部	白田 里香	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター
	高橋 利和	たかはしクリニック
近畿支部	□ 広瀬 正和	D Medical Clinic Osaka
	平井 洋生	愛媛県立中央病院
九州支部	□ 阿比留教生	長崎大学病院

□ 新任, 無 再任

3. 専門医認定委員会

△ 2018 年度選出 (任期: 2018 年 5 月~2019 年 5 月)
半数改選のため任期 2 年

■ 2018 年度選出 (任期: 2018 年 5 月~2021 年 5 月)

北海道支部	△ 宮本 義博	市立旭川病院
東北支部	△ 内藤 孝	坂総合病院
関東甲信越支部	■ 諸星 政治	(社) 東京都教職員互助会三楽病院
中部支部	■ 傍島 裕司	大垣市民病院
近畿支部	■ 大西 正芳	JR 大阪鉄道病院
中国・四国支部	△ 米田 真康	広島大学病院
九州支部	■ 下田 誠也	熊本県立大学

4. 女性糖尿病医を promote する委員会

2018 年度選出 (任期: 2018 年 5 月~2020 年 5 月)

北海道支部	◎安孫子亜津子 中村 昭伸	旭川医科大学 北海道大学病院
東北支部	□菅沼 由美 太田 節	秋田大学医学部附属病院 太田総合病院附属 太田西ノ内病院
関東甲信越支部	□富樫 優 □大村 千恵 三浦順之助 高橋 倫子	横浜市立大学附属病院 順天堂大学 東京女子医科大学 北里大学
中部支部	□大家 理恵 岡田由紀子	金沢大学附属病院 春日井市民病院
近畿支部	□森野勝太郎 □橋本 尚子 牛込 恵美	滋賀医科大学 兵庫県立姫路循環器病センター 京都府立医科大学 大学院
中国・四国支部	藤川 るみ 井町 仁美	グランドタワーメ ディカルコート 香川大学
九州支部	□西田 健朗 中山ひとみ 森田恵美子	熊本中央病院 久留米大学 産業医科大学病院

◎ 委員長, □ 新任, 無 再任

5. 臓器移植地域適応検討委員会 (任期: 2018 年 5 月~2020 年 5 月)

北海道ブロック

斎藤 重幸◎ 札幌医科大学
渥美 達也 北海道大学大学院
西尾 妙織 北海道大学病院
吉田 英昭 JR 札幌病院

東北ブロック

片桐 秀樹◎ 東北大学医学部附属病院
島袋 充生 福島県立医科大学
佐藤 博 東北大学
田熊 淑男 仙台社会保険病院

関東甲信越ブロック

島田 朗◎ 埼玉医科大学
西村 理明 東京慈恵会医科大学
成田 一衛 新潟大学大学院
新田 孝作 東京女子医科大学病院

中部ブロック

中島英太郎◎ 中部ろうさい病院
佐々木洋光 春日井市民病院
湯澤由紀夫 藤田保健衛生大学
両角 國男 医療法人衆済会増子記念病院

近畿ブロック

今川 彰久◎ 大阪大学大学院
山崎 真裕 京都府立医科大学
中西 健 兵庫医科大学
猪阪 善隆 大阪大学大学院

中国・四国ブロック

谷澤 幸生◎ 山口大学大学院
松久 宗英 徳島大学
和田 淳 岡山大学大学院
柏原 直樹 川崎医科大学

九州ブロック

安西 慶三◎* 佐賀大学
□小林 邦久 福岡大学筑紫病院
平方 秀樹 福岡赤十字病院
上木原宗一 熊本赤十字病院
□ 新任, ◎ ブロック代表者, * 新任ブロック代表者

11. 平成 29 年度選挙管理委員会委員承認について

細則第 44 条により, 下記の様に承認された。

北海道支部	三木 隆幸	札幌医科大学
東北支部	檜尾 好徳	仙台市立病院
関東甲信越支部	弘世 貴久	東邦大学
中部支部	榊原 文彦	住吉町クリニック
近畿支部	福井 道明	京都府立医科大学
中国・四国支部	金藤 秀明	川崎医科大学
九州支部	水流添 覚	天草市立栖本病院
会長経験者	中村 二郎	愛知医科大学

12. 「糖尿病学の進歩」運営委員会委員について

細則第 48 条④および「糖尿病学の進歩」運営委員会規定により, 下記の様に決定された。

第 52 回「糖尿病学の進歩」世話人 井口登與志
第 53 回「糖尿病学の進歩」世話人 大門 眞
第 54 回「糖尿病学の進歩」世話人 古家 大祐
第 61 回年次学術集会会長 宇都宮一典
第 62 回年次学術集会会長 山田祐一郎
学術担当常務理事 荒木 栄一
庶務担当常務理事 植木浩二郎
会計担当常務理事 中村 二郎

13. 学会後援について

申し込みのあった 4 件を後援することとした。

1. 栄養の日・栄養週間 2018 2018 年 7 月 15 日
2. ICoFF2019/ICPH2019/ISNFF2019
2019 年 11 月 28 日~12 月 5 日
3. 第 30 回分子糖尿病学シンポジウム
2018 年 12 月 1 日

4. 第30回日本糖尿病性腎症研究会

2018年12月1日～2日

14. 日本糖尿病学会糖尿病専門医制度規則改定について

専門医制度規則の改定が学術評議員会において承認された。

以上 文責 庶務担当常務理事 植木浩二郎